

Support 21 

Vol.53 2014.3

Newsletter

2013年度文化庁委託事業

「健康に過ごそう!」を合言葉に・・・

外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業

さぼうと 21 は 2013 年度も文化庁の委託を受け、「生活者としての外国人」のための日本語教育支援の充実を図る取り組みを続けています。今年度の事業では、通常の学習支援室の開催に加え、新たな「日本語教室の実施」、「人材の養成」、「日本語学習教材の作成」が進められています。

とくに今年度は、ここ数年、学習支援室受講者の皆さんから不安の声を多く聞くようになった「健康」をテーマに取り組みを考え、「食育」「歯育」「健康診断」をテーマにしたワークショップを開くこととしました。

2月に行われた「食育ワークショップ」、「歯育ワークショップ」では、栄養士、フードコーディネーターの資格をもつボランティアや、(公社)東京都歯科衛生士会のご協力をいただき、参加者皆でわいわい言いながら、健康な体をつくることを考えました。

「健康診断」のワークショップでは、新しく作成した「健康カード」に記入しながら、自分自身の健康状態を振り返ります。

10年、20年という日本生活の中で、新たに増えてくる様々な課題に、私たちも一緒に向き合っていきたいと願っています。



1年間の学習の総まとめ 「学習発表会」の開催!

日時：3月15日(土) 14時～17時

場所：さぼうと21(裏表紙地図参照)

サクラサク・・・さぼうと 21 の学習支援室で学んでいた高校3年生2名、中学3年生5名全員の進学が決まりました。そんな子ども達の頑張りに刺激を受けてか、大人たちも踏ん張りを見せ、12月に行われた日本語能力試験では、4名の支援室受講者が日本語能力試験 N1 に合格しました。安堵と喜びのあふれる学習支援室です。

そんな朗報を受けて、3月15日には、1年間の学習の総まとめ、恒例の「学習発表会」が行われます。「キーボード演奏」に挑戦する小学2年生。寸劇の練習に励む大人たち。「日本とミャンマーの健康観の違い」「月について」「ノア」・・・スピーチのタイトルも興味深いものが並びます。心地良い緊張と、それを克服した達成感が、明日からの学びの原動力となるでしょう。



昨年の発表会も充実してました!

さぽうと21 支援生とのつどい

～わたしたち、難民など外国出身の学生が研究発表をしました～

2013年12月21日(土) 13:30～17:00 @JICA地球ひろば600号室

第1部:大学生

文系・理系を問わず、幅広い分野の発表が次々に展開。

- ・ロボットの人工知能
- ・外国人児童への母語教育の重要性
- ・iPS細胞の試験管内での変化

など



横浜市立大学 / カンボジア



慶応義塾大学 / ベトナム



立教大学 / ベトナム



首都大学東京 / 中国



横浜市立大学 / ベトナム



横浜市立大学 / ペルー



大阪大学 / 中国

第2部:大学院生

修士課程で研究を深めた学生が成果を報告。

- ・特許情報に基づくエアコンの技術の移り変わり
- ・機械の信頼性に関する研究

など



東北大学 大学院 / 中国



東京工業大学 大学院 / ベトナム



名古屋工業大学 大学院 / 中国



本年度は5名の学生が社会人としての新たな一歩を踏み出します

支援生とのつどい

「坪井一郎・仁子学生支援プログラム」の受給生が専攻分野について発表すると同時に、日頃抱いている日本や出身国への想いや悩みを、来場者の方々との交流の中でともに考え合う場です。

このプログラムは東洋熱工業株式会社の創業者と令夫人のご遺贈を元に2005年に設立され、複数年度にわたる受給者も含めて、これまでのべ94名の学業継続を支援しております。

2013年度 東日本大震災被災地支援活動報告

岩手県釜石市の中学校での鼓体験ワークショップ ～能楽囃子大倉流大鼓奏者の大倉正之助さんをお招きして～

2013年12月3日～4日、重要無形文化財総合認定保持者の大倉正之助さんと3人のお弟子さんを招聘して、岩手県釜石市立大平^{おおひら}中学校と甲子^{かっし}中学校にて、両校生徒218名を対象に鼓の講習会を開催しました（姉妹団体AAR Japan [難民を助ける会]との協力による）。日本の伝統音楽に触れる機会が少ない子どもたちに、万物への畏敬の念、感謝の心をご指導いただきました。

岩手県釜石市は、東日本大震災による津波の影響で死者888名、被災家屋約4,700戸（市全体の3割）という壊滅的な被害を受けました。訪問した大平中学校と甲子中学校にも、親族を亡くした生徒や、仮設住宅から通う生徒が多く在籍しています。

大倉先生には、2013年7月6日～7日にかけて、宮城県石巻市北上町十三浜字吉浜の被災者の方々25名を鳴子温泉にご招待した際にも、体験講座をしていただきました（会場：宮城県大崎市立鳴子小学校、鬼首基幹集落センター/協力：AAR）。これらの企画は、サンキョー株式会社様のご寄付により実施しております。震災直後からさまざまな被災地支援活動にご協力いただいているサンキョー株式会社様に、改めて深く御礼申し上げます。



大倉正之助さんと鼓の稽古をする大平中学校の生徒（2013年12月3日）



甲子中学校にて（2013年12月4日）



さぼうと21支援生はこんな活動をしています
～教わり、教える立場になって～



鄒 秋平（高校生／中国）

以前私は自己紹介をする時に必ず「私は中国人です。」と紹介していました。でも、外国出身の人がたくさんいる私の高校では、その必要がないことが分かりました。それでも、私の名前を聞いて、気になる人は何人なのかを聞いてきます。そういう時に少し自分は外国出身だということを気にします。しかし、みんな一人一人をしっかり見ているように思えて嬉しいです。

気にしていないと言っても、やはり文化の違いで外国出身だということを強く意識します。例えば、お正月に初詣したり、お雑煮を食べたりはしません。そのかわり、中国の春節に大家族で餃子を作って食べます。また、日本語でも時々表現や感覚が微妙だと感じる場合があります。それから、歴史の授業などで中国に触れる時はやはり特別な感情があります。

外国出身者として、私は時々地域の日本語教室で日本語を教えたり、地域の多言語放送をしたりしています。その教室は日本語を勉強したいと思う外国出身の人なら、誰でも勉強できます。先生はボランティアで、私のように、来日した時に日本語を教わり、今は教える側に回っている人もたくさんいます。そういうシステムは本当に理想的だと思います。私はそこで教えるというより、いつも勉強させてもらっているように思います。日本語の面でも新しい発見があったり、またいろんな人と接することで考えが変わったり、一生懸命勉強している人からパワーをもらったりしています。何よりこんな私でも人の役に立っていると思うと、とても嬉しい気持ちになります。

日本で外国人として悩むことはたくさんあるけれど、私にしか分からないこと、私にしかかない感情があるので、それを強みにして、大切にしていきたいと思います。



比嘉 スサーナ ビオレッタ（大学生／ペルー）

近年、日本における外国人の増加に伴い、グローバル化が進んでいる。日本の学校に様々な国籍の子どもたちが通っている。私もそうだったように、日本語をゼロから学ぶ子どもが多い。私はこのような子どもたちの学習支援に興味を持ち、小学生から高校生まで支援をしてきた。生活言語には困らない子どもはたくさんいるが、学習言語になるとついていけない子どもの方がはるかに多い。授業中に求められる思考活動についていくために学習言語は欠かせないが、外国人児童には「生活言語」から「学習言語」に至るには時間がかかる。

私自身、小学校5年から日本語を勉強してきたから、子どもたちが置かれている状況を理解している。ほとんどのケースは保護者が移住を決めている。慣れない国でゼロからスタートするのは子どもにとって大きなストレスである。どのような支援を必要としているか、保護者にも理解が必要である。私は現在、日本ペルー共生協会では学習支援を行っていて、そこで気づいたのは、言語だけが問題なのではなく、むしろ環境が子どもたちに大きな影響を与えていることである。家での母語教育は欠かせないが、自覚している家族が少ない。日本語を覚えなければいけないと考える親は多数いるが、母語を忘れてしまうと、家族でコミュニケーションがとれない。日本語を勉強し、家では母語でのコミュニケーションを維持すれば、大人になってからでも母語の読み書きを勉強できる。

子どもたちの悩みや相談にのりながら、高校を卒業することの大切さを伝えている。そして、保護者にも子どもたちがどのような気持ちで学校に通っているか知ってもらうために、日本に移住して仕事をしている外国人の経験談を聞かせるイベントなども行っている。このようなイベントを通じて、子どもたちに目標や希望が生まれると考えて、この活動に取り組んでいる。

被災地復興支援コンサート 天満敦子ヴァイオリン・リサイタル 「明日に繋ぐ祈り 2014」

出演
天満敦子 バイオリン 吉武雅子 ピアノ

2013年3月の東北・東京公演に続いて、今年も天満敦子さんが各地を訪れ、被災地への深い祈りを込めた演奏会を行います。「3.11」を忘れず、復興への想いを新たにする機会として、多くの皆さまにお越しいただければ幸いに存じます。

東京公演
2014年3月25日(火) 19:00開演 紀尾井ホール
全席指定 S席 6,000円/A席 5,000円

—— 東北公演スケジュール (入場無料・要お申込み) ——

3月17日(月) 19:00開演	南相馬市民文化会館	(福島県南相馬市)
3月18日(火) 19:00開演	福島市音楽堂	(福島県福島市)
3月20日(木) 19:00開演	リアスホール	(岩手県大船渡市)
3月21日(祝) 17:00開演	郡山市民文化センター	(福島県郡山市)

[主催] AAR Japan [難民を助ける会]
[共催] 社会福祉法人 さぼうと21
[協力] オフィス天満
[特別協賛] 日本ロレックス株式会社

お申込みは AAR Japan Tel. 03-5423-4511
さぼうと21 Tel. 03-5449-1331

年 会 費 更 新 の お 願 い

早いもので、まもなく新年度を迎えようとしております。皆さまには、2013年度も1年を通じてお力添えを賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

おかげ様で今年度中も、難民等の外国出身学生 49名への生活支援金の支給、夏期研修会の実施、約70名が受講登録している学習支援室の運営などの活動を継続することができました。

Q. 最近、一番うれしかったできごとはなんですか？

内定先で研修に参加した時に多くの同期と友達になれてとても良かったです。皆さん優しい人がかりました。

◀ インドシナ難民二世・女性・大学4年生からのハガキ ▶

新年度に向け、さぼうと21では新たに就学を支援する学生の選考が進んでおります。

縁あって日本に定住し、経済的に困難な状況にありながらも進学や就職に向けて努力を惜しまない難民等の方々の自立支援に、変わらぬご協力をお願い申し上げます。

さぼうと21の会員年度は、4月から翌年3月となっております。当会へのご寄付と年会費は税法上の優遇措置が受けられます。



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.53 2014.3

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は…

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、在日外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。認定NPO法人難民を助ける会(AAR JAPAN)を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省(当時)認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。「困った時はお互い様」をモットーに、日本国内で政治・宗教に中立な立場で活動しています。学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援して下さる方を求めています！

- 会 員：法人会費 50,000円
 個人会費 5,000円
- ご寄付：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

◆ 会費・寄付のご送金口座 ◆

ゆうちょ銀行	振替口座：00180-7-25470 加入者名：社会福祉法人 さぼうと21 <small>※通信欄に会費または寄付とご明記ください</small>
三井住友銀行	目黒支店(普) 851872 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普) 1180279 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち <small>※銀行振込み後は事務局までご一報ください</small>

お問い合わせ

住所： 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル3階	
TEL： 03-5449-1331	FAX： 03-5449-1332
E-mail： info@support21.or.jp	URL： http://www.support21.or.jp
印刷会社： 秋田協同印刷株式会社	編集・発行： 社会福祉法人 さぼうと21

